

□には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名

グループホーム 北山

日付

平成18年3月31日

特定非営利活動法人

ライフサポート

評価機関名

評価調査員

在宅介護経験11年

評価調査員

在宅介護経験15年

自主評価結果を見る

(まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	地域での行事に積極的に参加をし、またホーム主催の行事にはボランティア、家族も加わって、地域との連携が非常に上手くとれている。ホームが大家族ではあが、普通の家としての役割を果たしているのではない。利用者は家族とは思っていないだろうが、限りなく家族に近い関係を感じる。		
	また「家庭生活の延長」を目指して、利用者は家事など出来る事はしてもらうように職員が声を掛けたり、励ましたり、一緒に行ったりしている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	リビングは両肘のついている座り心地の良い椅子、少し大き目なのでテーブルも沢山並んでゆったりできる。畳の部屋には古ダンス、ホームこたつが備えてあり郷愁が漂う。そこで気持ち良さそうに昼寝をしている利用者がいた。金魚の水槽があり、黒板には日にちと天気情報が記入してある。玄関は開放してあり前庭も整備されて隣のユニットに行き来自由でマイペースで過ごしている。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

玉葱を切りながら「あんた泣いてる?」「いや、まだ今日は出てない」「えっ、もうしたん? 早いなあ」と口々につぶやきながら、切った野菜の山が出来る。あちらでは職員と一緒に「も～もたるさん……」と歌っている。一寸休憩とソファで休んでいる利用者。その人の力が発揮できるように言葉かけや対応がなされて気持ちよくできるように心掛けています。

舞踏の会のポスターが目についた。利用者全員で家族も参加して見に行く行事だが、今年は職員が4名特別出演するそうで、ただいま特訓中。それも、舞踏の会の先生が「知らない人ばかりより、顔見知りの人が出るとより楽しいよ、教えてあげるから」と親切に言ってくれたそうで、当日、職員だと分かった時の利用者の驚き、感激の笑顔を、今から想像している。草取りも頼まれたら、皆で草取りに出かける柔軟な対応が出来る。散歩だけでなく、こんな対応もあるのかと嬉しい発見です。知人、地域に支えられて、地域に可愛がってもらっているこのホームは、してもらったことはどこかで還元する気遣いのあるホームです。

特に改善の余地があると思われる点

次のような提案をした

1、諸記録をもう少し簡略で効率よく記入や利用が出来るよう工夫してはいかがですか。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	病気の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	毎日の日課のようなものは無く、家庭の延長として考えていて、食事をつくり、掃除をし、洗濯を始めて乾す。今まで家でしていた事を継続して出来るように励ましながらか々なことをしてもらっている。男性もテーブルを拭くし、全員のコップにお茶を注ぎ配る、テーブルに玉葱を置く(とサッと四方から手が伸びて皮を剥ぎ始める。こんな具合に皆がそれぞれに自分の役割として生活している。		
	利用者と家族の交流にグループホームが上手に関わっている。ある家の大事な行事に利用者の参加の是非を聞かれ、管理者は即、「参加させてあげて下さい」と管理者が付き添っている。家族の訪問で、食事時になると、一緒に食べてもらったり、タクシーを利用される家族には車で送ったりして、色々な面での気配り、気遣いができている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	ホームと家族、ホームと地域はとても良い関係ができている。		
	利用者の留守宅に皆で出掛けている。(逆デイ)そこで庭の掃除をしたり草を抜いたり刈ったり、ご飯を作って食べたりして、一日過ごしている。利用者はお茶碗を選んだり、あれやこれやと、もてなしに大変らしいが嬉しい一日だったことだろう。		
	幼稚園の運動会ではホームの皆さんの席が設けてあるという。(運動会前日はホームの皆さんが幼稚園の職員等とグラウンドの草取りをしている) 地区内に火事があった時もホーム内で差し支えないことを確認して職員が手伝いに行っている。地区の方から受ける恩恵もさることながら、ホームでもそれに応えるべく気配りが出来るように思った。		